

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

## 藤枝市地域公共交通会議 (藤枝市)

平成18年10月26日設置

令和3年6月1日 藤枝市地域公共交通計画策定  
(計画期間：令和3年4月～令和8年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業  
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

# 1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

## 藤枝市の概要

- 人口 139,975人 (R6.11末)
- 特徴 市域の約7割を中山間地域が占める  
昭和の合併で9町村、平成の合併で1町が合併  
政令市静岡市のベッドタウン

## 地域公共交通計画

### 基本方針

～誰もが快適に 移動できるまち ふじえだ～

地区拠点から都市拠点・文化交流拠点へ  
アクセスできるネットワークの形成

- 目標 1  
ふじえだ型コンパクト+ネットワークの構築
- 目標 2  
利用しやすい環境整備による利用促進
- 目標 3  
多様な関係者の連携による公共交通の確保
- 目標 4  
地域全体で支える持続可能な公共交通

### 目指す姿

居住誘導区域や都市拠点、文化交流拠点等  
地域ごとの機能を有する各区域、拠点間を  
容易に移動できる交通ネットワークの構築

### ●地域間幹線

主に隣接市の静岡市、焼津市などに連絡している6路線が広域的な移動を可能とするほか、地域内フィーダー系統と接続し市内の回遊性を確保する役割を担う。

### ●地域内フィーダー系統

民間、市自主運行、乗合タクシーの各路線が沿線住民の日常生活の足として機能。地域間幹線系統に接続し補完することで広域的な移動を可能としている。

### ●その他の地域内バス路線

民間路線バスへの補助、自主運行バスの運行により生活交通を確保。

### ●その他の広域路線

藤枝駅から富士山静岡空港までのアクセスバスを市自主運行し市外から広域的な人の流れを誘導。

●都市機能誘導区域  
(都市拠点)

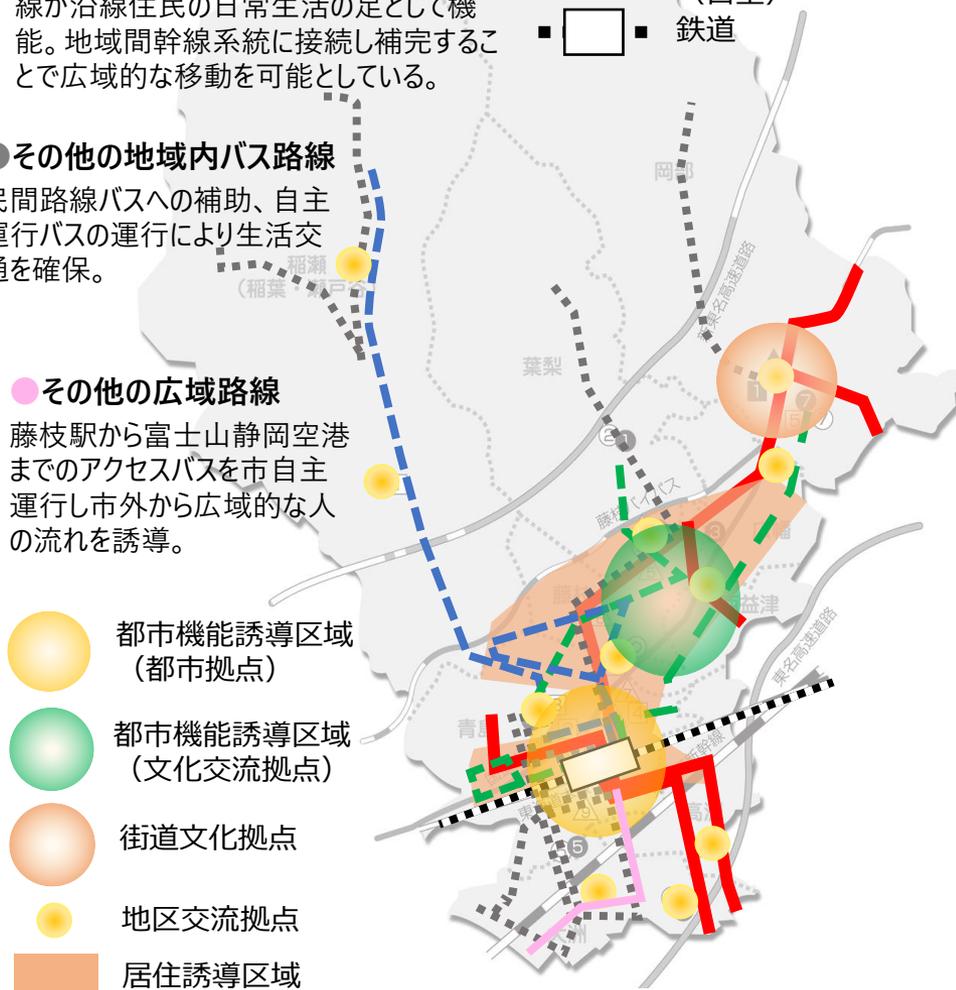
●都市機能誘導区域  
(文化交流拠点)

●街道文化拠点

●地区交流拠点

■居住誘導区域

- 地域間幹線
- フィーダー系統 (バス)
- フィーダー系統 (乗合タクシー)
- その他の地域内バス路線 (民間・自主)
- その他の広域路線 (自主)
- 鉄道



《 令和 6 年度までの主な取り組み 》

● 国庫・県補助の活用、市単独補助の投入、ソフト事業の実施や停留所増設等による交通ネットワークの確保維持改善

フィーダー補助

★ 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー補助）を活用した自主運行バス・乗合タクシーの運行

- ・自主運行バス 1 路線 4 系統  
藤枝駅ゆらく線
- ・藤枝市乗合タクシー 4 路線  
藤岡地区乗合タクシー  
バス停型乗合タクシー  
藤枝駅広幡線、藤枝駅光洋台線、  
五十海市立総合病院線

★ 公共交通利用の啓発

- ・バスマップ時刻表の作成・全戸配布
- ・バストリートの開催  
バス利用促進のため、中心市街地で子供向けの啓発イベントを開催。R6～バス・タクシー事業者と協力し乗務員募集の呼びかけを行うなど、課題解決のため内容をアップデートし開催。
- ・高齢者向けモビリティマネジメントパンフレットの配布
- ・出前講座の実施
- ・静岡県主催「ハッピーライドin静岡」への協力（小学生を対象に市内自主運行バスの 1 日無料を実施）

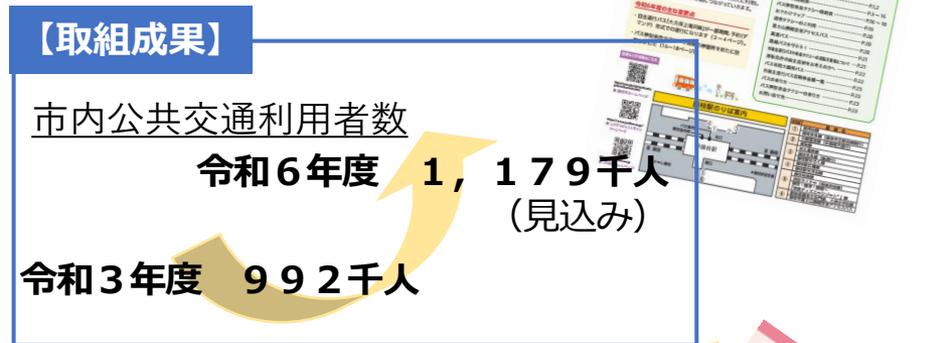
★ 市単独補助、自主運行による路線の維持

地域間幹線系統、フィーダー系統以外にも、民間路線バスへの市単独補助や県による自主運行バス維持費補助金を活用した自主運行バスの運行により生活交通の確保を図っている。

★ バス停型乗合タクシーの停留所新設・区域の拡大

- R4.3 「五十海市立総合病院線」 新規開通
- R5.4 「藤枝駅広幡線」 仮宿地区・東町地区に延伸  
「五十海市立総合病院線」 時ヶ谷地区に延伸
- R6.4 「藤枝駅広幡線」「五十海市立総合病院線」「藤枝駅光洋台線」  
停留所 4 箇所増設、うち 2 地点を乗継可能に
- R6.10 「藤枝駅広幡線」「五十海市立総合病院線」「藤枝駅光洋台線」の  
停留所 3 箇所増設および谷稲葉地区へ延伸

⇒ 交通空白地域への延伸による空白地解消、停留所増設による地域間幹線系統との接続拠点の増加



## 2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

### 《 令和6年度までの主な取り組み 》

#### ● 藤枝市乗合タクシー 配車予約システム導入・停留所の増設

共創・MaaS

令和6年度共創・MaaS実証プロジェクト 共創モデル実証運行事業（以下「共創モデル事業」という）を活用し乗合タクシーの配車効率化・まちづくりの計画と合わせた停留所の増設やシェアサイクルステーションの増設による居住機能向上の取組を実施。

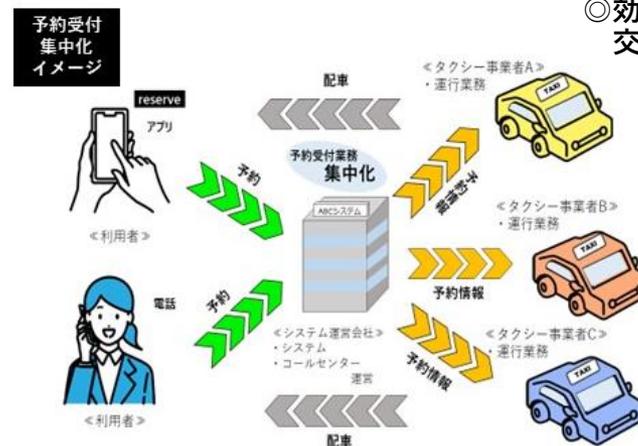
立地適正化計画  
中心市街地活性化基本計画  
旧市街地活性化基本計画  
地域公共交通計画

コンパクト+ネットワーク  
のまちづくりによる回遊性の向上

乗合タクシー予約アプリへの  
シェアサイクルステーションの  
表示、停留所・シェアサイク  
ル乗降ポイント増設

幹・枝・葉  
の円滑な接続  
交通ネットワークの充実

#### 取組の全体像・効果



- ◎受付集中化による運行効率化
- ◎効果的な停留所・ステーションの配置による交通モードの円滑な接続



#### 【取組成果】

利用者アンケートより  
月あたりの外出増加数

3.32回/月

「外出意欲が増加した」と回答した人の割合

67.20%

アプリ利用者満足度

(やや満足・満足と回答) 78.9%

#### ◆ AIオンデマンド交通「ふじえだmobi」実証運行への協力

令和5年度・令和6年度に民間事業者により共創モデル事業を活用し実施されたAIオンデマンド交通「ふじえだmobi」の実証運行事業への協力をを行い、AIオンデマンド交通を敷設することによる市内公共交通への影響、商業者と連携することによる地域内経済への影響を図る取組を実施。

#### 【取組成果】

利用者にとって安価で自由度の高い交通手段を敷設することによる他の公共交通への影響や、スマートフォンアプリによる利用率を測ることにより、市内公共交通の将来像を描くうえで参考となるデータを取得することができた。



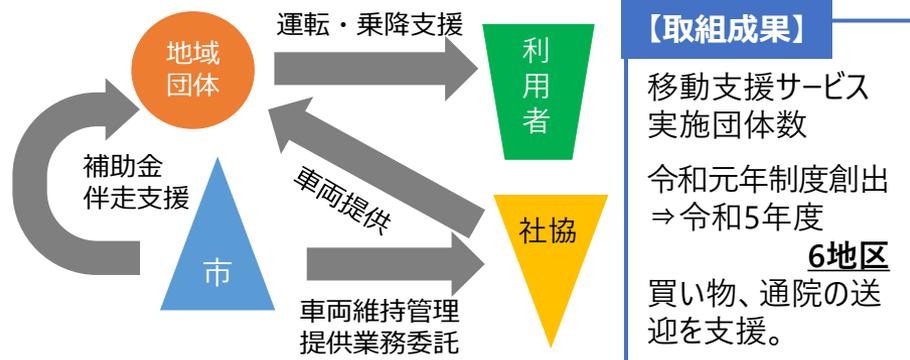
《 令和6年度までの主な取り組み 》

● “誰もが快適に移動できるまち”実現に向けた移動支援サービスの構築への支援

高齢による身体的事情等で公共交通による移動が困難な方で、自身の運転、家族等の支援も受けられない方を対象とした多様な移動支援サービスの構築・運営支援を行っている。

① 出かけっCARサービス支援事業 (R1~)

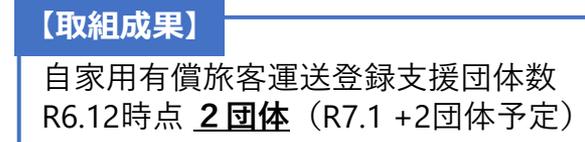
公共交通による移動が困難な方で、自身の運転、家族等の支援も受けられない方を対象と無償運送による移動支援サービス。地区社会福祉協議会を母体としたボランティア団体により運営。



② 自家用有償旅客運送支援事業 (R4~)

高齢者等の移動支援ボランティア団体の自家用有償旅客運送創出・運営支援。

R5~市が国土交通省より自家用有償旅客運送の登録事務権限移譲を受けより円滑な登録伴走支援が可能に。



無償運送から福祉有償運送への移行により事業継続性を確保。

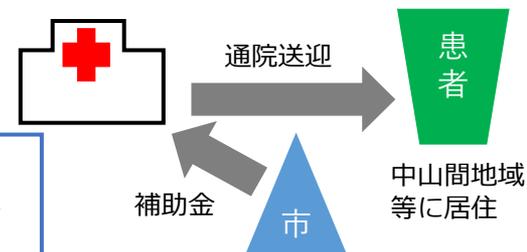
③ ふじえだ足すと号運行事業 (R4.7~)

高齢者等の外出支援を行うボランティア団体の送迎支援を市の直営で実施。



④ 交通空白地域通院送迎支援事業 (R5~)

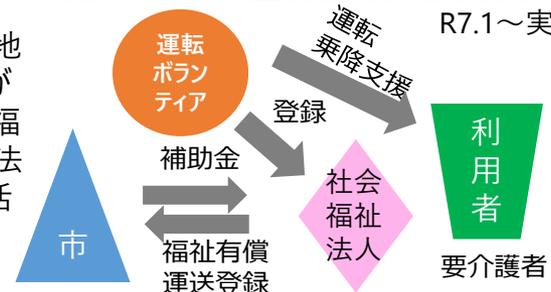
自力での通院が困難な患者の通院送迎を行う地域のクリニックに対する補助金による支援



⑤ 法人と連携した要介護者向け福祉有償運送支援事業

R7.1~実施予定

市と社会福祉法人、地域の運転ボランティアが連携し要介護者への福祉有償運送を実施。法人はデイサービス等で活用している車両を空き時間に提供。



### 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

	指標・目標値	達成状況				考察
		1年目 (R3)	2年目 (R4)	3年目 (R5)	4年目 (R6)	
目標1	民間路線バス・市自主運行バス・乗合タクシーの利用者数（千人／年） 1,370千人／年（令和元年度） ⇒1,370千人／年（令和7年度）	992 千人／年	1,025 千人／年	1,145 千人／年	1,179 千人／年 (見込)	バスマップの全戸配布やバス利用啓発イベントの実施による利用者数の増加を図ったが、コロナ禍以前の利用者までは回復していない。少子化に伴う通学利用の減少がある一方、免許証を返納した高齢者が増加しているため前年比増となっていると思われる。
	乗合タクシーや出かけっCAR等地域の需要や実情に応じて新たに移動を確保した路線数または地区数 3地区(令和元年度)⇒9路線・地区(令和7年度)	6 路線・地区	8 路線・地区	9 路線・地区	11 路線・地区 (見込)	地区ごとのヨコのつながりや自家用有償旅客運送の活用支援のほか、地域の法人と連携した移動支援事業の実施により、市内移動支援サービスが拡大・充実している。
目標2	バスロケーションシステムやキャッシュレス決済等利便性向上のために新たにシステムを導入した路線数（計画期間中） 8路線	1路線	1路線	1路線	4路線 (12月末時点)	乗合タクシーについて、令和6年度10月から配車予約アプリの導入を行った。自主運行バスについてもバスロケーションシステムの導入等デジタル技術の活用を検討していく。
	市内高齢者（65歳以上）運転免許返納者数（件／年） 868件（令和元年度）⇒900件（令和7年度）	781件／年	738件／年	677件／年	716件／年 (11月末時点)	高齢になっても就労するなど活発に活躍する高齢者が多いこともあり、自動車による移動が不可欠な状況な方が多く、なかなか免許返納に至らない例が多いと思われる。
目標3	出前講座・協議会・利用促進事業の実施回数（回／年）及び参加者数（人／年） 実施回数 9回／年 ⇒ 12回以上／年 （令和元年度）（令和7年度） 参加者数 167人／年 ⇒ 200人／年 （令和元年度）（令和7年度）	計26回 805人	計33回 614人	計54回 1,079人	計30回 851人 (12月末時点)	乗合タクシーの延伸やAIオンデマンド交通の利用促進、自家用有償旅客運送を含む移動支援事業など、様々な事業について地域と継続的な協議を行った。地域「足の課題」意識による新たな仕組みへの関心が高まり制度説明・協議の機会が増加している。
目標4	補助金等公的資金投入額 194,923千円（令和4年度） ⇒218,000千円以下（令和7年度）	-	-	215,128千円	225,776千円	2024年問題（運転手労働時間の制限）や人件費、燃料費等の高騰により費用が増加した。
	市内路線バス等収支率 34.2%（令和4年度） →32.6%（令和7年度）	-	-	32.4%	30.7%	利用者数はコロナ禍に比べ増加したが、コロナ禍以前までは回復していない。また、人件費、燃料費等の高騰により費用が増加した。

### ■ 目標 1 ふじえだ型コンパクト+ネットワークの構築

### ■ 目標 4 地域全体で支える持続可能な公共交通

#### ■ 路線・区域の見直しによる交通ネットワークの充実

自主運行バス・乗合タクシーの停留所の見直し、交通空白地域への区域の拡大により地域間幹線への接続を強化し、交通ネットワークの拡大を図る。

#### ■ ソフト事業の充実による公共交通の利用啓発

バス利用啓発イベント、出前講座の内容充実や、利用者にとって理解しやすいバスマップの作成、配布による公共交通の利用啓発を行う。

#### ■ 移動支援サービスのための制度活用支援

さらなる移動支援サービス充実のため、地域・団体の特性に応じた制度の活用を提案するなど、継続的に地域・団体との協議を行っていく。

### ■ 目標 2 利用しやすい環境整備による利用促進

#### ■ バスロケーションシステム等のデジタル技術の活用

公共交通の利用環境整備としてバスロケーションシステムや次世代交通システムを活用し、免許返納後の公共交通への移動手段の転換に対する不安をやわらげ、利用促進を図る。

#### ■ 乗合タクシーシステムの改善

R6.10導入の乗合タクシー予約システム、コールセンターの改善を行い利用環境・乗継環境の向上を図る。

### ■ 目標 3 多様な関係者の連携による公共交通の確保

#### ■ 交通ネットワークの確保維持改善についての継続的な議論

バス路線や乗合タクシー沿線の地域住民、事業所など事業の目的・路線に応じた多様な主体との継続的な議論を行うことにより、都市機能強化に向けた交通ネットワークの確保維持改善を図る。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	今年度運行開始した「AIオンデマンド」について、その利用状況、利用者の声、課題などを把握、検証し、新たな地域交通の発掘に積極的に取り組まれることを期待します。	実施主体とともに利用状況を分析し、実施体制を強化したうえで令和6年度実証事業につなげた。	令和6年度実証運行結果について、既存公共交通への影響、オンデマンド型交通やスマートフォンアプリの受容性等、公共交通の将来像を描くうえでの参考となるよう分析を行う。
	各路線について、アンケートや乗降調査等を実施し、乗り継ぎ利用なども含めた利用状況や利用者ニーズの把握に努め、今後の運行を検討されることを期待します。	自主運行バス・乗合タクシー全路線について利用者属性や目的地、乗換有無等のアンケート調査を行い実態・ニーズの把握に努めた。	引き続きアンケート調査を行い、利用者ニーズの把握に努めるとともに、アンケート結果を参考とした利用環境の改善に努める。
前々回	引き続き地域公共交通計画の目標、実施内容、実施結果に関する評価・分析を定期的に行うとともに、必要に応じた見直しを進められることを期待します。	地域公共交通計画の評価・分析を実施するとともに、フィーダー系統補助活用のための改定を行った。	引き続き地域公共交通計画の評価・分析を行い、令和7年度の計画期間満了による第2期計画策定に向けた議論を行う。
	一部路線で導入しているキャッシュレス決済について、旅客の更なる利便性向上及び新規利用者の開拓のため、他路線への拡大を期待します。	令和6年度に乗合タクシー全路線へのキャッシュレス決済の導入を行った。	利用状況の分析や利用者アンケートの実施により、キャッシュレス決済の可能なサービスの拡充を図る。

※前回：6年3月21日、前々回：5年3月10日

★進捗管理を行いながらPDCAサイクルにより着実な事業実施を図る。

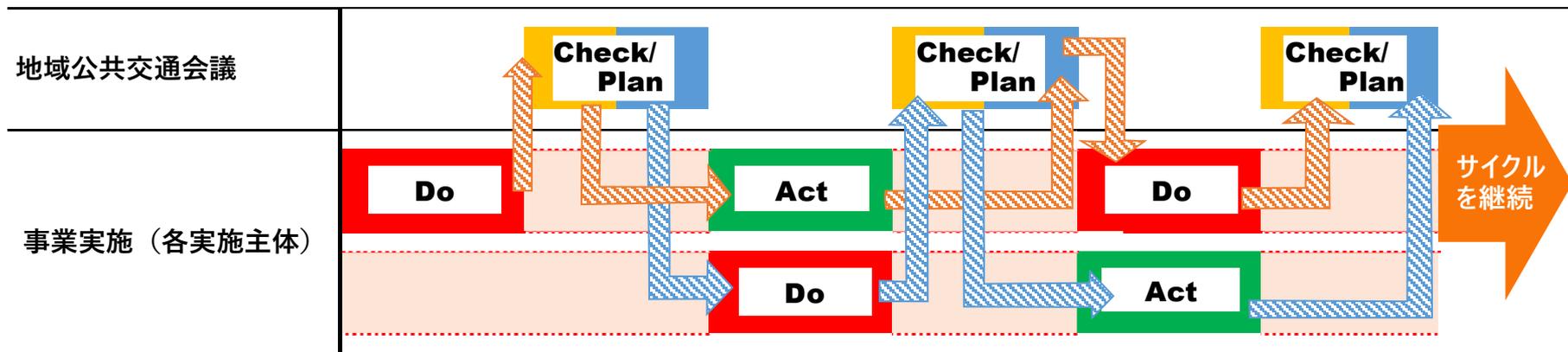
年2回（6月・12月）に地域公共交通会議を実施。必要に応じて随時協議会を開催。

### 藤枝市地域公共交通会議事業サイクルイメージ

6月：事業進捗確認  
事業計画承認

12月：事業進捗確認  
事業計画承認

※必要に応じて  
随時開催  
翌6月：事業進捗確認  
事業計画承認



### 令和6年度藤枝市地域公共交通会議開催状況

- 4月 本会議① 臨時開催  
静岡鉄道(株)共創MaaS実証事業実施における協議
- 5月 共創プラットフォーム分科会  
藤枝市共創MaaS実証事業プラットフォーム協議
- 6月 本会議② 定期開催  
フィーダー計画の承認、前年度計画事業評価
- 7月 自家用有償旅客運送分科会  
自家用有償旅客運送変更登録申出による協議

- 10月 本会議書面開催（運送法第9条4項協議）  
小学生バス無料デー実施のための運賃協議
- 12月 本会議③ 定期開催  
確保維持改善事業評価・申し出系統対応協議
- 翌1月 自家用有償旅客運送分科会  
自家用有償旅客運送新規登録申出による協議
- 翌2月 共創プラットフォーム分科会  
藤枝市共創MaaS実証事業PF事業評価

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月16日

協議会名: 藤枝市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
吉田観光㈱ 藤枝駅ゆらく線	①筈の木橋一金吹橋・藤枝市立総合病院一藤枝駅前 ②筈の木橋一金吹橋一藤枝駅前 ③瀬戸谷温泉ゆらく前一金吹橋・藤枝市立総合病院一藤枝駅前 ④瀬戸谷温泉ゆらく前一金吹橋一藤枝駅前	・市内全戸にバスマップ・時刻表を配布した。 ・路線バスの利用促成及び市民の意識醸成を目的としたバスイベントを開催した。	A 日数/運行回数 ①計画:240日/480回 実績:243日/486.0回 ②計画:362日/726回 実績:360日/715.5回 ③計画:240日/720回 実績:243日/729.0回 ④計画:362日/968回 実績:362日/954回	B 理由 利用者数は増加しているが目標数値に達成していない。特に通勤での利用者が少ない傾向にある。	○路線バスのイベントや出前講座等による路線バスの利用啓発に努める。 ○志太温泉線や大久保上滝沢線との接続を確保し、藤枝駅や旧市街地周辺と中山間地域との移動手段を確保する。 ○乗降調査等により利用者ニーズを把握し、運行内容の改善を検討する。
しずてつジャストライン ㈱ 志太温泉線	藤枝駅前一藤枝市役所・金吹橋・瀬古一藤枝駅前	・市内全戸にバスマップ・時刻表を配布した。 ・路線バスの利用促成及び市民の意識醸成を目的としたバスイベントを開催した。	A 日数/運行回数 計画:361日/8076回 実績:361日/8,123回	A 目標 利用者数101,100人/年に対し、実績106,198人/年	○路線バスのイベントや出前講座等による路線バスの利用啓発に努める。 ○バスマップ・時刻表の配布によるバス路線の周知や、路線バスイベント開催による利用促進に努める。
共同運行 ・志太交通㈱ ・静鉄タクシー㈱ ・丸新交通㈱ 藤岡地区乗合タクシー	藤岡地区一大手・蓮華寺池公園入口・千才バス停一藤枝市立総合病院	・市内全戸にバスマップ・時刻表を配布した。また、藤枝市バス停型乗合タクシー利用ガイドブックを配布した。	B 日数/運行回数 計画:243日/1,700回 実績:243日/1,623回 理由 乗合率(1便当たりの乗客数)が高く、利用者数に対し、運行便数が少なくなっているため。	B 理由 理由 公共交通としての乗合タクシーが地域に広く周知されたことにより、利用者が増加した。昨年2,586人に対し、2,756人と170人増加している。	○利用者アンケート等により利用者ニーズを把握し、運行内容の改善を検討する。 ○対象地域へのチラシの回覧など、路線の周知に努める。 ○配車システムの構築

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
共同運行 ・志太交通(株) ・静鉄タクシー(株) ・丸新交通(株) 藤枝駅広幡線	藤枝駅前ー平島・田中・東町ー静清高校前	・生活圏域から地域の医療機関や拠点施設等へのアクセス向上のため、運行区域の拡大及び停留所の増設を行った。	A 日数/運行回数 計画:243日/2,200回 実績:243日/2,268回	A B 目標 利用者数3,700人/年に対し、実績3,687人/年。  理由 利用者は、昨年3,164人に対し、3,687人で、523人増加した。増加傾向にある。また、全戸配布したバス停型乗合タクシー利用ガイドブックにより、乗合タクシーが周知され利用が増加したと考えられる。	○利用者アンケート等により利用者ニーズを把握し、運行内容の改善を検討する。 ○対象地域へのチラシの回覧など、路線の周知に努める。 ○配車システムの構築 ○中部国道線、五十海大住線、バス停型乗合タクシー五十海市立総合病院線と接続 ○路線バス、自主運行バスに接続するような延伸を行っていく。
共同運行 ・志太交通(株) ・静鉄タクシー(株) ・丸新交通(株) 藤枝駅光洋台線	藤枝駅前ー光洋台・三軒屋ー瀬戸消防団前	・市内全戸にバスマップ・時刻表を配布した。また、藤枝市バス停型乗合タクシー利用ガイドブックを配布した。	A 日数/運行回数 計画:243日/2,200回 実績:243日/2,268回	A 目標 利用者数3,200人/年に対し、実績3,687人/年。  理由 利用者は、昨年2,887人に対し、3,687人で800人増加し、増加傾向にある。また、全戸配布したバス停型乗合タクシー利用ガイドブックにより、乗合タクシーが周知され利用が増加したと考えられる。	○利用者アンケート等により利用者ニーズを把握し、運行内容の改善を検討する。 ○対象地域へのチラシの回覧など、路線の周知に努める。 ○配車システムの構築 ○駿河台線、藤枝駅吉永線、藤枝相良線、中部国道線、自主運行バス駅南循環善左衛門線・大洲小学校線に接続。 ○路線バス、自主運行バスに接続するような延伸を行っていく。
共同運行 ・志太交通(株) ・静鉄タクシー(株) ・丸新交通(株) 五十海市立総合病院線	時ヶ谷ー藤枝市役所南口ー藤枝市立総合病院	・市内全戸にバスマップ・時刻表を配布した。また、藤枝市バス停型乗合タクシー利用ガイドブックを配布した。 ・生活圏域から地域の医療機関や拠点施設等へのアクセス向上のため、運行区域の拡大及び停留所の増設を行った。	A 日数/運行回数 計画:243日/2,100回 実績:243日/2,264回	B 目標 利用者数3,500人/年に対し、実績3,401人/年 利用者は、昨年3,348人に対し、3,401人で53人増加し、増加傾向にある。また、全戸配布したバス停型乗合タクシー利用ガイドブックにより、乗合タクシーが周知され利用が増加したと考えられる。	○利用者アンケート等により利用者ニーズを把握し、運行内容の改善を検討する。 ○対象地域へのチラシの回覧など、路線の周知に努める。 ○配車システムの構築 ○中部国道線、志太温泉線、駿河台線、藤枝駅吉永線、自主運行バス藤枝駅ゆらく線 ○路線バス、自主運行バスに接続するような延伸を行っていく。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年12月16日

協議会名：	藤枝市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ふじえだ型コンパクト+ネットワークの構築 地域特性に応じた公共交通サービスの提供や官民連携による効率的な公共交通の運行により、都市拠点と各地区拠点を結ぶ効率的な公共交通ネットワークを整備する。</li> <li>● 利用しやすい環境整備による利用促進 主要交通結節点の待合・乗継環境の改善や公共交通の運行情報の提供、高齢者の自家用車から公共交通への転換となる利用環境整備等を図り、公共交通を利用しやすい環境を整える。</li> <li>● 多様な関係者の連携による公共交通の確保 公共交通の現状を市民に情報提供し、充分理解してもらうとともに、公共交通への市民参画を推進し、また、地域、交通事業者、行政の三者が協働できる組織・体制づくりを行うことで、持続可能な公共交通の確立を図る。</li> </ul>